

就活必勝法



長引く不況の影響を受け、就職状況の冷え込みが報じられている。「就職氷河期の再来では」という声さえある。このような状況下でも、本学は高い就職率と就職実績を維持している。本学キャリア支援室の活動を紹介するとともに、希望通りの就職を果たした本学学生にインタビューし、本学と本学学生の厳しい就職戦線における奮闘ぶりをお伝えします。

高い就職率と就職実績

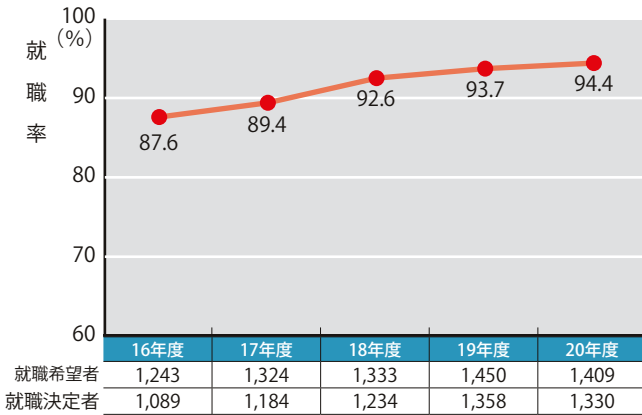
本学の就職率は平成16年度以来、一貫して上昇している。(図1)

岡山県内に本社を置く企業への就職も好調だが、岡山県外の企業への就職も増えており、全国で活躍している。(表1)

一方、公務員の実績では、国家公務員I種採用試験・国家公務員II種採用試験とともに平成16年度以来、合格率が上昇傾向にある。(図2、図3)

とりわけ国家公務員I種採用試験においては、中四国地区での全大

■図1：就職状況 (過去5年間の就職率)



■表1：就職実績 (企業) 就職者数上位20社 (過去3年)

順位	平成18年		平成19年		平成20年	
	人	企業	人	企業	人	企業
1	36	中国銀行	26	中国銀行	38	中国銀行
2	33	両備システムズ	11	両備システムズ	16	両備システムズ
3	24	ザグザグ	10	NECシステムテクノロジー	13	セリオ東洋グループ
4	22	倉敷中央病院	9	三菱電機	13	三菱重工業
5	19	カワニシ	8	岡山村田製作所	12	三菱電機
6	18	伊予銀行	8	キャノン	11	広島銀行
7	18	シンフォーム	7	伊予銀行	11	三井住友銀行
8	18	広島銀行	7	カワニシ	11	日本郵政グループ
9	17	NOVA	7	塩野義製薬	10	日立製作所
10	16	天満屋	7	天満屋	9	NTT西日本
11	15	ELBEC	6	NTT西日本	9	山口銀行
12	15	グロップ	6	グロップ	8	天満屋
13	14	陽州コーポレーション	6	トヨタ自動車	8	日本生命保険
14	13	積水ハウス	7	シンフォーム	7	NECシステムテクノロジー
15	12	NECシステムテクノロジー	7	スズキ	7	岡山村田製作所
16	12	KG情報	7	セリオ東洋グループ	7	デンソー
17	12	JR西日本	7	ダイハツ工業	7	トヨタ自動車
18	12	日亜化学工業	7	デンソー	7	伊予銀行
19	12	百十四銀行	6	ナカシマプロペラ	6	日本電気
20	11	倉敷化工	5	日本総合研究所	6	NTTデータ

ア支援室の存在によるところが大きい

視野を広げた職場探しを応援

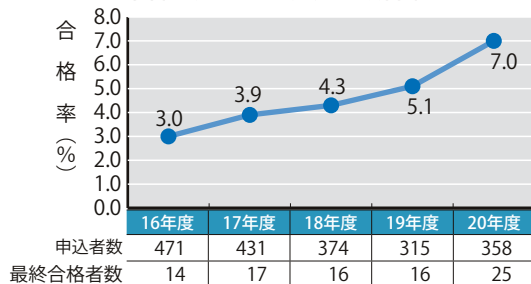
これらの高い就職実績は、キャリア支援室の存在によるところが大きい。人事院主催の国家公務員I種採用試験説明会「中央庁庁セミナー」が、中四国地区では本学でのみ行われるようになったのも、この高い合格率を背景としている。

中1位であり、「行政・法律・経済職」区分においては、中四国地区のみならず九州地区を加えた全大で1位というめざましい成果をあげている。(表2)

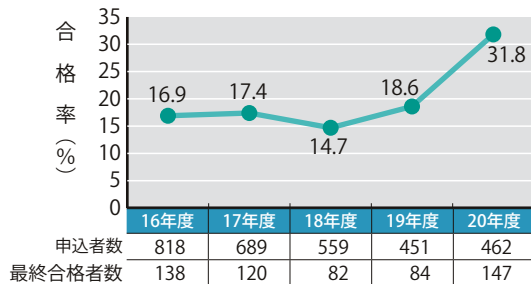
「地方国立大」ということで選肢を自ら狭めてしまふ学生が多い。自分の能力を活かすにはこういう進路もある、ということを感じさせたい」と三浦孝仁。

い。平成18年にオープンしたキャリア支援室はそれまでの「就職情報室」を拡大したもので、専任教員2名・事務職員3名、さらにキャリアカウンセラーを3名配置し、学生の就職支援を行っている。カウンセリングや行事を通じ、学生の就職マッチングを行っているが、そこでは学生が就職活動にあたって、視野を広げることを推奨している。「地方国立大

■図2：国家公務員Ⅰ種採用試験合格状況



■図3：国家公務員Ⅱ種採用試験合格状況



■表2：平成20年度国家公務員Ⅰ種採用試験 行政・法律・経済区分

大学名	合格者数
1 東京大学	224 (54)
2 早稲田大学	67 (13)
3 京都大学	65 (11)
4 慶応義塾大学	53 (7)
5 東北大学	34 (10)
6 一橋大学	32 (6)
7 大阪大学	28 (2)
8 立命館大学	20 (7)
9 中央大学	19 (4)
10 岡山大学	16 (5)
11 神戸大学	15 (4)
12 九州大学	13 (5)
12 北海道大学	13 (4)

※()内の数字は、女子を内数で示す。



▲東京プレインターンシップ

キャリア支援室長は語る。「OB・OGフォーラム」を数度開催するなど、卒業生と話す機会を数多く設けているのも、注目すべき点の一つである。活躍している先輩と話すことで、学生に自信と誇りを持ってチャレンジして欲しいとのねらいからだ。さらに平成19年から毎年、就職活動を控えた学生に首都

圏機能を体験させる「東京プレインターンシップ」を実施している。これは首都圏で活躍している卒業生と実際に会って話を聞くことで全国区での就職を視野に入れて欲しい、との考えで企画されたものだ。国家公務員Ⅰ種採用試験における合格率や、全国展開している企業への就職実績の上昇はこうした取り組みによるものである。

みんなが集まる

「キャリア・サロン」へ

そして、このような就職支援だけでなく、キャリア支援室が目指しているのは「本学でいちばん明るく、みんなが集まる場所」になることだ。つまり、「集まった学生



▲就活リーダーズ合宿

動支援行事」が取り組まれている。これらのイベントや就職活動を体験した多数の学生が現在、「学生就活サポーター」として後輩の指導にあたり、就職実績の向上に貢献している。

全国展開している企業における本学学生への採用意欲も高い。本年11月にはじめて東京で実施した、本学と関東地区の企業との関係強化を目的とする「企業懇談会」には、多数の企業が参加。「岡大生を積極的に採用したい」との発言が相次いだ。

同士が切磋琢磨する中で、自分を見つめ直し人間的に成長することが就職支援につながる。さらにそこに卒業生が加わることで本学自体が活性化し、ひいてはブランド力向上にも資する「三浦キャリア支援室長」ことが展望されている。

「キャリア支援室は気軽に、ポジティブな相談ができる場所、いわば『キャリア・サロン』を標榜している。1年生であつてもかまわないから、どんどん話に来て欲しい。大歓迎です」(三浦キャリア支援室長)

「本学の学生には『質実剛健・忍苦 精進・不撓不屈』という第六高等学校の精神が受け継がれている。その点が混迷を深める社会で戦っていかねばいけない企業に好感を持たれるのでしょう」(三浦キャリア支援室長)。

実際に首都圏への就職率は上昇しており、キャリア支援室では今後も卒業生や全国展開している企業および地元企業との懇談を継続していく予定である。



▲学生就職活動支援行事



▲キャリア支援室

就活体験談



浅野史也さん／文学部4年生
(株)ビザビ 内定

ました。いったん地元を離れたからこそ岡山の良さに気づいたわけで、**地元就職と決めていてもほかの土地で就活してみるの**は良いことだと思えます。

就職を意識したのは3年生の8月頃。学生が立ち上げた就活サークル「就活オ・レノ」に参加。実際に社会人から面接を受けるイベントなどを経験し、それがスタートダッシュとなつて、後の就活でもとても役立ちました。

イベントでお話
した社員の方が
とても面白かった

ウソはつかず、 相手の視点に立って

ので、ビザビを第一志望にしていたのですが、「よそも回って決めて欲しい」と言われたので、東京や大阪などいろいろな所の企業を回りました。たしかに、都会にはライバルが多く、刺激になりましたが、やはり地元であることの安心感に気づき、地元で自分のやりたいことがやれるビザビを選び

接の時だけ自分を繕うのは簡単ですが、いざその会社で働くとなつた場合、困るのは自分ですから。面接には「素の自分」で臨んだのですが、面接官もありのままの自分を見てくれている感じが伝わってきて、うれしかったですね。

後輩へのアド
バイスとしては、
エントリーシー
トでも面接でも常に採用する側の
視点に立つことが必要、というこ
とです。就活ではどうしても自己
満足に陥りがちですが、採用する
のは相手に、相手に理解してもら
えなければ意味がありません。あ
りのままの自分をどうすれば理解
してもらえるか、それを意識しま
しょう。

1年生の冬に、説明会に参加して公務員に興味を持ち、3年生の6月頃から公務員一本に絞って勉強を開始。本学主催の公務員試験講座を受講したのですが、受講者はみな本学学生なのでアットホームな雰囲気があり、とても楽しかったですね。

市役所を志望していて、国家1種は記念受験だったのですが、思いがけず1次試験に合格。それならば、と以前から入りたかった国税庁を受験しました。現在では国家公務員1種採用試験においても、出身大学を問われず、人間力を見られる傾向にあります。実際、私の採用同期も出身大学はみなバラバラです。2次試験では官庁訪問を

一つの考えに固執せず、 いろいろなチャレンジを

うものなので、面接においては、入室時には、笑顔であるようにとめたり、マナーをきちんと守ったりと、常に印象がよくなるように心がけました。話の内容ももちろん重要ですが、やっぱり笑顔が大事だと思います。

後輩へのアドバイスとしては、「これじゃないといけない」と一つの考えに執着しないで、機会があればいろいろなチャレンジして欲しいということです。思いがけず、自分の道が開けることがありますから。



新垣南さん／法学部4年生
国税庁(国家1種) 内定

平成19年の倉敷小町をつとめていて、テレビ局と仕事をする機会が多く、人と話をするこの楽しさに気づいたことから、テレビ業界を志望。どうせなら東京のキー局がいいと思って3年生の9月に就活を開始し、フジテレビを受験しました。

面接は「捨て身の覚悟」で臨みました。受かってやろうという気持ち捨て、「こんなすげえ面接官たちと話せるこの場

を楽しむ」ことにしたんです。そうすると余裕が出てきて、周りが見られるようになりました。緊張せずに話せるようになりましたし、自然に笑顔が出てくるようになりました。面接後には「自分が出せた」という満足感がありました。業界研究が足りず、わからないことだらけで、おまけにアナウンス技術もなかったのですが、キャリア支援室で相談に乗っていただけ、そのアドバイスに従ってあって背のびはせず、倉敷小町の経験から感じた、人と話すことの楽し

さ、そして「これから頑張るのでよろしく願います」と情熱を伝えるようにしました。面接官の方も、技術や知識よりもその人の人間性を判断基準としているように感じられました。私の場合、自然体で面接に臨めたこと、そして情熱を伝えられたのが良かったのかなと思っています。

後輩へのアドバイスですが、本学は「どうせ岡大だから」とチャレンジしない学生が多いように感じます。もっと自信を持って自分の目指しているものに向かってチャレンジして欲しいと思います。今年度は、フジテレビの採用試験を受けてくれた岡大生が何人かいるそうで、とてもうれしく思いますね。

面接は楽しんで、自然体で

山崎夕貴さん／経済学部4年生
(株)フジテレビジョン
アナウンス部 内定

3年生の12月頃、就活を開始しました。農学部生ということもあり、志望業界は自分のつくったものが老若男女の日常生活に関わる食品業界一本に絞りました。就活の拠点は大阪に置き、週6日そこを中心

に活動しました。安いホテルだったので、なんとかなったのですが、就活はお金がかかりました。あの程度資金は貯めておいた方がいいと思います。東京や大阪の企業を主に受験したのですが、地方の岡大生であることは逆に強みでした。というのも、周りは都会の大学の学生ばかりなので、地方大学だと目立つんです。「御社を受けに岡山から来ました」というと面接官の受けがとて良かったですね。それから、就活はとて忙しいですが、しっかり食べてしっかり眠ることを心がけました。100%の力を出すにはコンディションが万全でないといけませんから。

面接でいちばん聞かれるのは自



渡辺健司さん 農学部4年生
(株)ニチレイフーズ 内定

面接官の目を見て、 会話をするように

己PRです。学生時代に何を頑張ったか、何を学んだか、それをどう会社で活かせるか、を厳しく問われます。そこで役に立つのがキャリア支援室でのカウンセリングです。フローチャートに従った自己分析法を指導してくれ、誰の真似でもない自己PRを組み立てられます。私の時もとても役に立ちました。

後輩へのアドバイスとしては、面接では面接官の目を見て話すこと、です。一方的に自分の話をして、立て続けに面接に落ちたときがあったんです。ところが、しっかりと面接官の目を見て、面接よりも会話をしているつもりで臨んだら、面接に通りました。面接官は目を見ているんだと思います。